

かまくらっ子の意識と実態調査 第12集

# かまくらっ子

—その生活の中から—

令和8年3月

鎌倉市教育委員会

## はじめに

鎌倉市教育センターでは、1982（昭和 57）年以來、約 40 年にわたり「かまくらっ子」の意識と生活実態を探るために、3～5 年ごとに調査研究を行ってきました。そしてこのたび、第 12 集を発行する運びとなりました。

前回の第 11 集を発行した令和 2 年からの 5 年間で、新型コロナウイルス感染症による生活の変化や GIGA スクール構想による一人一台端末の実現等、社会も教育現場も急速に変化し続けています。

今回の「かまくらっ子」の調査・研究では、その変化の中にあるかまくらっ子の意識と実態を、より多くの方々に周知し、考えるきっかけとしていただけるよう、調査方法と調査結果の掲載の仕方を見直しました。

子どもたちの実態をしっかりと見つめ、鎌倉の地で育ち未来を担っていく子どもたちを大切に育てていくために、学校、家庭、地域が連携し合い、より良い環境を考える一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本調査研究に真摯な取り組みをしていただいた 11 名の教育研究員の先生方、アンケートにご協力いただいた保護者の方々、各幼稚園・保育園の先生方、各小・中学校の児童生徒のみなさんと先生方、また御指導と御支援をいただきましたお茶の水女子大学 名誉教授 耳塚 寛明先生に心より感謝申し上げます。

鎌倉市教育センター  
所長 内田 竜宏

## < 目次 >

### I 調査研究の概要

- 1 研究の概要
- 2 研究の目的
- 3 調査の対象・方法・時期

### II 調査結果と考察

#### 1 親子のかかわりについて

- (1) 【幼児】家で絵本を見る機会の変化
- (2) 【幼児】家での過ごし方・親子のかかわり方
- (3) 【幼児】子どもの習い事の傾向
- (4) 【幼児】保護者が園に求めるもの
- (5) 【幼児】子育てにおいて力を入れていること
- (6) 【児童生徒】ほめられることは全学年で「勉強・成績のこと」が最も多い

#### 2 生活について(1)

- (7) 【幼児】就寝時間・起床時間については、大きな変化はあまりみられない
- (8) 【児童生徒】就寝時間は学年が上がるに連れ遅くなっている
- (9) 【幼児・児童生徒】朝食は多くの幼児・児童生徒が食べている
- (10) 【児童生徒】家の仕事をする児童生徒は前回調査より約10%減っている
- (11) 【幼児・児童生徒】家の仕事は、どの学年も“食事”の回答が多かった
- (12) 【幼児・児童生徒】挨拶はどの学年もほとんど行えている

#### 3 生活について(2)

- (13) 【児童生徒】スマートフォン・携帯電話、コンピュータの使用時間は学年が上がるにつれ増加している
- (14) 【児童生徒】一週間の読書時間が減少し、スマホ等の使用時間が100分以上増加
- (15) 【児童生徒】学年が上がるにつれて「いじめが減っている」とは言い切れない
- (16) 【児童生徒】「毎日が楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童生徒は約3~10%減少している

#### 4 学習・地域との関わりについて

- (17) 【児童生徒】朝や放課後の学習時間は市内児童生徒で二極化している
- (18) 【児童生徒】地域のお祭りや行事への参加

#### 5 基礎集計表、回答グラフ

資料 質問一覧表、調査用紙(Google フォーム)

# I 調査研究の概要

## 1 研究の概要

1982（昭和 57）年 11 月に初めて研究調査が実施されてから、およそ 5 年ごとを目途に調査し、今回は第 12 集になる。

今までの調査研究の主な目的は、昭和 57 年：体の姿（健康状態）・生活実態・意識、昭和 62 年：しつけ・いじめ・遊び、平成 3 年：意欲、平成 6 年：生活習慣・意識、平成 11 年：生活習慣・意識、平成 16 年：生活習慣・意識・学校週 5 日制・情報機器、平成 21 年：生活習慣・意識・情報機器・コミュニケーション能力、平成 26 年：情報機器、コミュニケーションツールとしてのパソコンや携帯電話・自己肯定感生活の関連性、平成 30 年は授業・先生についての項目の充実を行ってきた。

今回の研究では、調査内容は大幅には変えず、調査・研究結果をより多くの人に活用してもらうためにはどうするか考え、調査方法・発行方法ともにデジタル化へ移行した。調査結果の掲載方法も、興味関心を引きそうなトピックを立てて前半に掲載し、全結果については基礎集計表と回答結果のグラフを後半に掲載する形に変更した。また、今回の調査より、性別の回答には男女に加え無回答も選択肢に含めた。

今回は、保育園、幼稚園、小学校、中学校の教育研究員からなる研究会を組織し、2 期 4 年に渡り調査・研究を行った。令和 4 年度に予備調査、令和 5 年度（10 月～12 月）に本調査を実施し、令和 6、7 年度に調査結果の考察、多くの人が利用しやすい発行の方法を研究した。

## 2 研究の目的

鎌倉市内に在園・在学する幼児・児童・生徒がどのような生活をし、どのような意識を持っているのか、日常生活を中心に調査し、把握するとともに、過去の調査結果と比較検討することで意識や実態の変化の様子を明らかにしようとするものである。また、その調査結果を幼児・児童・生徒の健全な心身の発達を促すために指導の参考にするものである。

### 3 調査の対象・方法・時期

#### (1) 調査の対象

鎌倉市内の市立保育園3園、私立保育園3園、私立幼稚園4園、認定こども園1園  
市立小学校6校、市立中学校3校

内訳	男	女	無回答	調査人数	在籍者 総数	調査率
保育園・幼稚園年長組	78	75	1	154	1272	12.1%
小学校3年生	180	196	9	385	1211	31.8%
小学校6年生	206	198	15	419	1265	33.1%
中学校2年生	137	156	5	298	1129	26.4%
合計	601	625	30	1256	4877	25.8%

単位は（人）

#### (2) 調査方法

Google フォームによるアンケート調査を実施した。

保育園、幼稚園、認定こども園の幼児については、保護者にQRコードの書かれた用紙を配付した。

児童生徒については、学級単位で「実施の手引き」に沿って、担任が説明しながら実施した。

今回の調査では、幼児の回答率の低さが目立った。QRコードが書かれた紙を渡すだけでは実行性が低いため、回答率を高める工夫が必要である。

#### (3) 調査時期

○保育園、幼稚園

令和5年11月20日（月）～12月15日（金）

○小・中学校

令和5年10月2日（月）～11月2日（木）